

# 発達障害のある人のパートナーの感じる困り感

—パートナーによるブログの分析から—

○西村実穂

(東京未来大学こども心理学部)

徳田克己

(筑波大学医学医療系)

KEY WORDS: 発達障害 結婚 日常生活

## (目的)

近年、発達障害のある人を取り巻く問題の一つとして、パートナーの心身にさまざまな不調が起こることが知られるようになってきた。発達障害の特性によるコミュニケーションがうまく取れないことが不調の原因であると言われている(宮尾・滝口, 2016)。発達障害のある人のパートナーに対しては、その特徴を知り、それに合わせた対応や支援をすることが勧められている(宮尾ら, 2016)。しかし、日常生活において発達障害のある人のどのような言動に対してパートナーが違和感を覚えているのか、問題であると感じているのかについては明らかではなく、また、パートナーの心身の不調への対応方法は確立されていない。

発達障害のある人の日常生活を知る手段として、パートナーの書くブログがある。ブログは容易に開設することができ、日々の出来事や考えていることを自由に発信できるツールである。発達障害のあるパートナーを持つ人のブログの分析によって、日々の生活において、どのような問題が生じているのかをうかがい知ることができると考えられる。そこで、本稿では発達障害のある人のパートナーによるブログの分析を通じて、パートナーが発達障害のある人のいかなる言動に困り感を持っているのかを明らかにすることを目的とする。

## (方法)

発達障害(もしくはその疑い)のある人のパートナーが作ったブログであり、日々の生活に関する内容が記載されているブログ 50 件を分析対象とした。分析対象となったブログに出てくる発達障害の種別はアスペルガー症候群 50% (25 件)、アスペルガー症候群と ADHD 8%(4 件)、ADHD 6% (3 件)、未診断の者が 36%(18 件)であった。

インターネット検索エンジン、ブログランキングサイトを用いてブログを抽出し、それぞれのブログ記事の内容からパートナーが感じる困った点を抽出して分類した。50 件のブログのうち、妻が開設しているものが 78%(39 件)、夫が開設しているものが 22%(11 件)であった。調査時期は 2017 年 3 月~5 月であった。

## (結果と考察)

ブログの記事に書かれている問題を野波・宮尾・滝口(2015)、宮尾ら(2016)の書籍を参考に分類し、該当する者が多い上位 10 項目を表 1 に示した。64% (32 件) のブログで挙げられていたのが「気持ちをわかってくれない」という内容であった。具体的には、「今日あったことを話しても『だから何?』と言われる」、「自分が好きな物をけなされる」、「寝るまで一緒にいてほしいという子どもに『いつ寝るかわからないから』とその場を去ろうとする」といった記事があった。

次に多かったのが「会話が続かない」、「予定が変わるとパニックになったり、不機嫌になる」、「自分のやり方にこだわる」(各 46%、23 件)であった。「会話が続かない」については話を振っても会話が終わってしまうケースとパートナーが一方的に好きな話をするために会話が成立しないケースがみられた。生活するなかで会話をする機会是非

常に多い。些細なことではあるが、会話がスムーズにいかないことが何度も重なると、つらいと感じるようになって考えられる。

「予定が変わるとパニックになったり、不機嫌になる」ケースでは、「自分のイメージしていた通りに物事が進まない」と不機嫌になる、「フリーズして動けなくなる」などの記事があった。反応のあらわれ方はさまざまであるが、予定外の出来事に対応できず、それが態度に表れ、パートナーが戸惑っていた。

「自分のやり方にこだわる」ケースでは、「効率の悪い方法で家事をしようとする。他の方法があることを助言しても受け入れない」、「買い物に行くときに店をまわる順番が決まっており、それを変えられない」といったケースがあった。自分のこだわりを家族にも押し付けようとするためにパートナーが負担を感じていた。

「感覚の異常」については、食事に関して「食べ物の好き嫌いが激しい」、「腐っているものでも気づかずに食べてしまう」、「匂いに敏感で「洗ったばかりの服でも『臭い!』と言って着ようとしなない」といったケースがあった。感覚に合わせて料理を作ったり、洗濯をし直すなど感覚の過敏さにパートナーが合わせなければならぬことを負担に感じているようすがうかがえた。

「体調が悪いのに心配してくれない」については、病気やけがのときだけでなく、妊娠中にも全く気づかいないことを書いている者が複数いた。体調が悪いときに気遣ってもらえないことは負担になり、より印象に残りやすいのではないかと考えられる。

「片づけられない」については、部屋が汚いという程度ではなく、「カバンのなかから腐って異臭がする食べ物が出てくる」、「部屋がゴミ屋敷になっている」というように、日常生活に支障をきたすほどの状態になっているためにパートナーが困っているケースがあった。

表 1. パートナーの感じる困った点

気持ちをわかってくれない	64% (32 件)
会話が続かない	46% (23 件)
予定が変わるとパニックになったり 不機嫌になる	46% (23 件)
自分のやり方にこだわる	46% (23 件)
言葉通りにしか伝わらない	44% (22 件)
感覚の異常	36% (18 件)
段取りができない	32% (16 件)
話し合いができない	30% (15 件)
体調が悪いのに心配してくれない	30% (15 件)
片づけられない	26% (13 件)

(%の母数は分析対象となったブログ 50 件)

## (文献)

野波ツナ・宮尾益知・滝口のぞみ(2015)『家族のためのアスペルガー症候群とのつきあい方』, コスミック出版。  
宮尾益知・滝口のぞみ(2016)『夫がアスペルガーと思ったときに妻が読む本』, 河出書房新社。  
(NISHIMURA Miho, TOKUDA Katsumi)